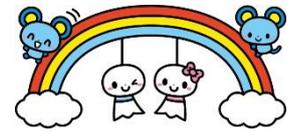




くれよん あんず組



先日はお忙しい中、保護者会にご参加いただき、ありがとうございました。保護者の方自身のお話も聞くことができる良い機会になり楽しい時間を過ごせました。子どもたちは園生活にも慣れ、少しずつ自我を出してきていて、イヤイヤ期が始まりつつあるのかな？という面を見せています。これも成長の過程なので、子どもたちの「やりたい！」や「もっと！」などの気持ちと向き合い受入れながら、言葉や仕草でのやり取りを増やしていけるよう促していきたいと思います。

今回のおたよりでは、保護者会でも少しお話したあんず組にある玩具を紹介します。ポトリンコ・積み木・簡単なパズルや型はめなど遊びを通して生活面における様々なことができますようになります。玩具によってどんなことを目的として行っているのかお伝えします。



<ポトリンコ>

容器にある穴に様々な形のものを落とすおもちゃです。ポトリンコの穴は入れるものとだいたい同じくらいの大きさになっています。初めは掴んで離すだけで落ちるような大きさで握りやすい丸いものから遊び始めます。そのうち形や大きさが異なるものへと変わっていき、落とすものと穴の位置を合わせるために向きを変えたり、手首をひねったり、反対の手に持ち替えたりするなど、少しずつ手先の複雑な動きが必要なポトリンコで遊ぶようになります。ポトリンコでは、「つまむ」「離す」「引っ張る」「押し込む」「腕を上げる」などの指先の細かい動きを遊びの中で獲得していきます。この動きが、食事のスプーンを握る・口まで食材を運ぶなどの動作や、靴、靴下を履く・脱ぐなど生活面で必要な手首・指先の動きに繋がっていきます。

<絵本・布絵本>

絵本は大人の膝の上に座って読んでもらったり、お友だちと一緒に読んでもらったり、自分で眺める事もあります。ページをめくることで指先の細かな動きを促したり、知っている物が出てくると「あー」と発したり、ゆびさしをしたりしています。絵本を通して物の名前や色、形の違いを知る事もあります。また、大人が発した言葉の語尾を真似して語彙を獲得する手助けになります。絵本を出すと「どんな絵本かな？」とワクワクした表情を見せてくれる子どもたちです♪

<積み木>

あんず組には牛乳パックの積み木、木製&フェルトでできた積み木の2種類があります。初めは大人が積み上げたり並べる様子をじっと見ていたり、積み上げた物を崩したりしていました。そのうち子どもたち自ら並べたり、積み上げたりして遊ぶようになってきました。子どもたちの座高より高く積み上げることもあり、立ち上がって真剣な表情で積み木をのせています。

積み上げる、並べるだけでも乗り物や建物に見立てる事もでき、それを繰り返していくことで、いずれ幼児になった時に、子どもたちが見た物、想像した物を作り上げるなどの遊びに発展していきます。